



個人投資家向け説明会

ラックホールディングス株式会社

2007年10月26日



株式コード 3857
JASDAQ・ヘラクレス

目次

1. ラックホールディングス株式会社とは？

2. LACってどんな会社？

3. A & Iってどんな会社？

4. 経営統合への道のり

5. 経営統合の背景・目的

6. 企業理念およびビジョン

7. グループ基本戦略

8. 統合シナジーと戦略

9. 主要なお客様

10. 中期事業計画

11. 株主還元方針

12. 参考資料



グループ会社について



ラックホールディングス株式会社とは？

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

2007年10月1日設立の持株会社



さらに成長・進化するために両社の強みを生かし、シナジー効果を最大限に引き出すためのグループのブレイン（経営戦略の頭脳）

LACってどんな会社？

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

ネットワークセキュリティのプロフェッショナル集団

現在、IT (情報技術) は、単なる便利な道具ではなく、

ITを基盤として、私たちの暮らしや社会が変革しようとしています。



Little eArth Corporation (小地球会社)

LACは1986年に、ITによって
地球が相対的に小さくなることを
予測し、会社を設立しました。

LACのミッションは

ITによって、地球を小さくすること、
その愛すべき地球を守ること。



LACのブランド力

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

➤ JSOC

⇒ 日本随一のネット社会警備センター
日本唯一のネット上の鑑識官 (セキュリティアナリスト) チーム

➤ コンピュータセキュリティ研究所 (CSL)

⇒ ITセキュリティトレンドリーダー

➤ データベースセキュリティ研究所 (DBSL)

⇒ 情報金庫であるデータベースセキュリティを先回りして研究

➤ 政府関係機関での委員活動

⇒ 総務省、経産省 など

➤ セキュリティホール

⇒ 日本随一の発見と報告

➤ 緊急対応チーム

⇒ 報道されている多くの事件対応に関与



TVや新聞など、多くのマス
メディアで報道
さらに、ビジネス雑誌や
専門誌での執筆や取材

A & I ってどんな会社？

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

金融を主とした大規模なシステム開発 を手がける情報技術集団

普段皆さまが何気なく利用しているシステムを信頼と実績で構築しています。

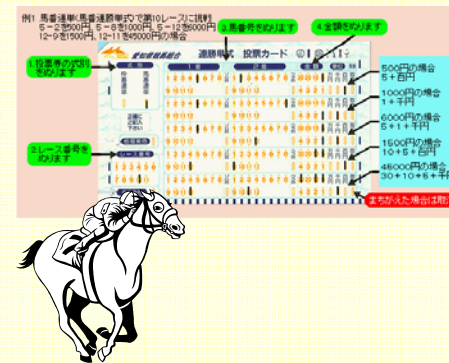
銀行のATMシステム

窓口でなくとも・・・
営業時間外でも・・・

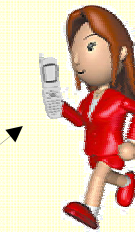


馬券購入システム

競馬場に行かなくとも・・・



携帯電話から馬券購入



自宅のパソコンから馬券購入



金融分野を中心に長年にわたるシステム開発で培った、豊富な経験と実績を持った
コンサルタントが情報技術 (IT) の観点から、お客様のビジネスを競争優位に導くた
めの実現性のある情報戦略および情報化計画 を策定するコンサルティングサービス、システム
開発、システムソリューションサービスを提供いたしております。

A & Iの強み

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

コンサルティングから運用・保守までの 一貫したソリューションの提供

コンサル

設計

開発・構築

導入

運用・保守

コンサルドリブンで全工程をカバーし、最後はハウジングでアウトソーシング

コンサルで提案

SIでシステム設計・構築・導入
高付加価値ソリューションの提供

ハウジングサービス
(ストックビジネス)

1. 業務ソリューション

- ・ERP
- ・CRM
- ・SCM
- ・e-Marketplace
- ・e-Learning
- ・Business Mobile
- ・KM/BI 他

2. 基盤技術ソリューション

- ・ネットワーク技術
 - CISCO(Router, Switch)
 - IMT2000
 - VoIP
- ・Web開発技術
 - Websphere/Java/UDB
 - XML
- ・セキュリティ(認証, FW, ウィルス, 暗号化)
- ・ASP/IDC 他



経営統合について

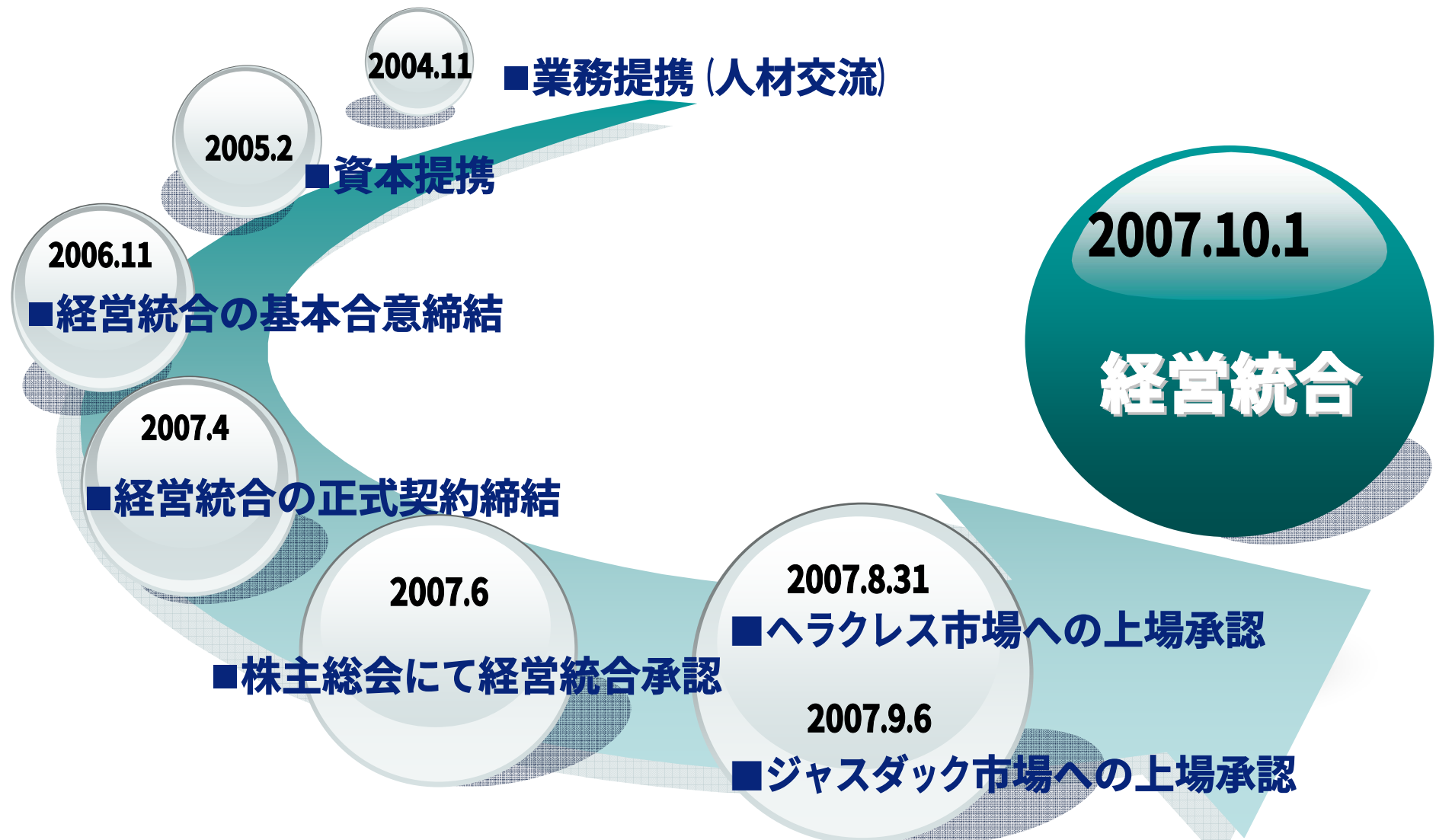


経営統合への道のり

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画



経営統合の背景

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

業界としての現状と課題

要望は拡大！

社会インフラとしてITは重要度を増し、顧客からの**要望は拡大**

競争は激化！

企業において内部統制強化、セキュリティ対策強化が叫ばれ、その分野での**競争は激化**

IT市場環境は激変！

新たなテクノロジーやビジネスモデルの登場により、**IT市場環境は激変**

現状
課題

企業としての現状と課題

ブランド力の強化

LACは情報セキュリティに強みを持つが、**業界リーダになるためには**、まだまだ課題がある

付加価値向上の必要性

A&Iは基盤系システム、金融系システムに強みを持つが、**付加価値向上**という課題がある

投資体力の強化

共通課題として、規模が小さく、十分な**投資体力**（企業体力）がない

経営統合の目的

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

激化する市場競争を勝ち抜くため、
統合により**経営基盤を強固**なものにし、
戦略的な投資を行う

両社の強みを活かし、
高付加価値ソリューションの提供を行う

重複しない顧客市場を相互に活かし、
**一層の市場拡大と顧客への
取り組み強化**を行う



企業理念およびビジョン

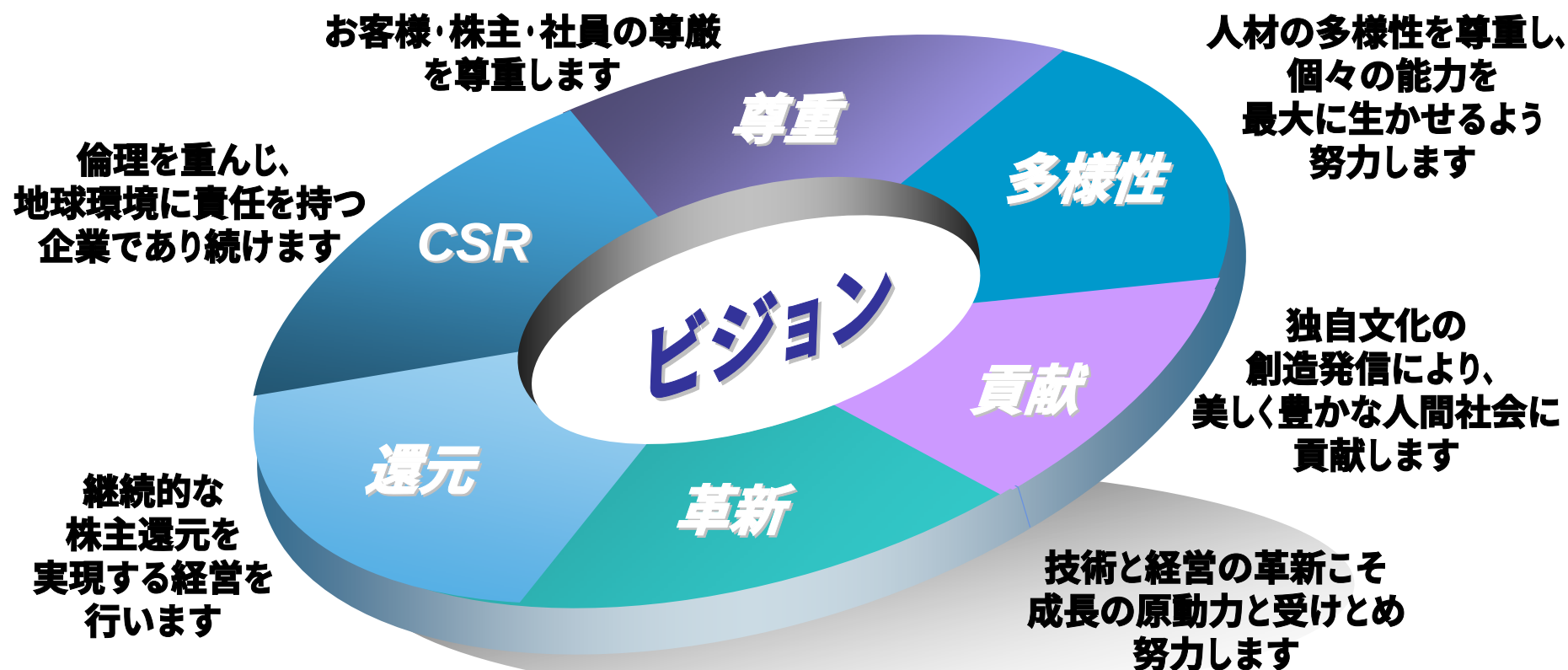
グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

企業理念

進化し続けることで成長し、持続可能性の高い経営により、社会にとってなくてはならない存在を目指します



グループ基本戦略

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画





統合シナジーと中期事業計画



統合シナジーと戦略

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

シナジー累積効果1,150百万円 (2007年10月～2010年3月)

事業収益の拡大・・・目標利益870百万円

◆両社のコンピテンシーの拡大によるビジネス拡大

- 高付加価値事業への人材の再配置
- 事業領域の再定義
- ワンストップ・サービス

◆顧客基盤の拡大を最大限に生かした営業施策

- クロスセリング体制の確立

経営効率の向上・・・目標利益280百万円(コスト減)

◆経営統合費用および内部統制構築費用

◆各種経費削減およびオフィス圧縮

◆その他一時費用

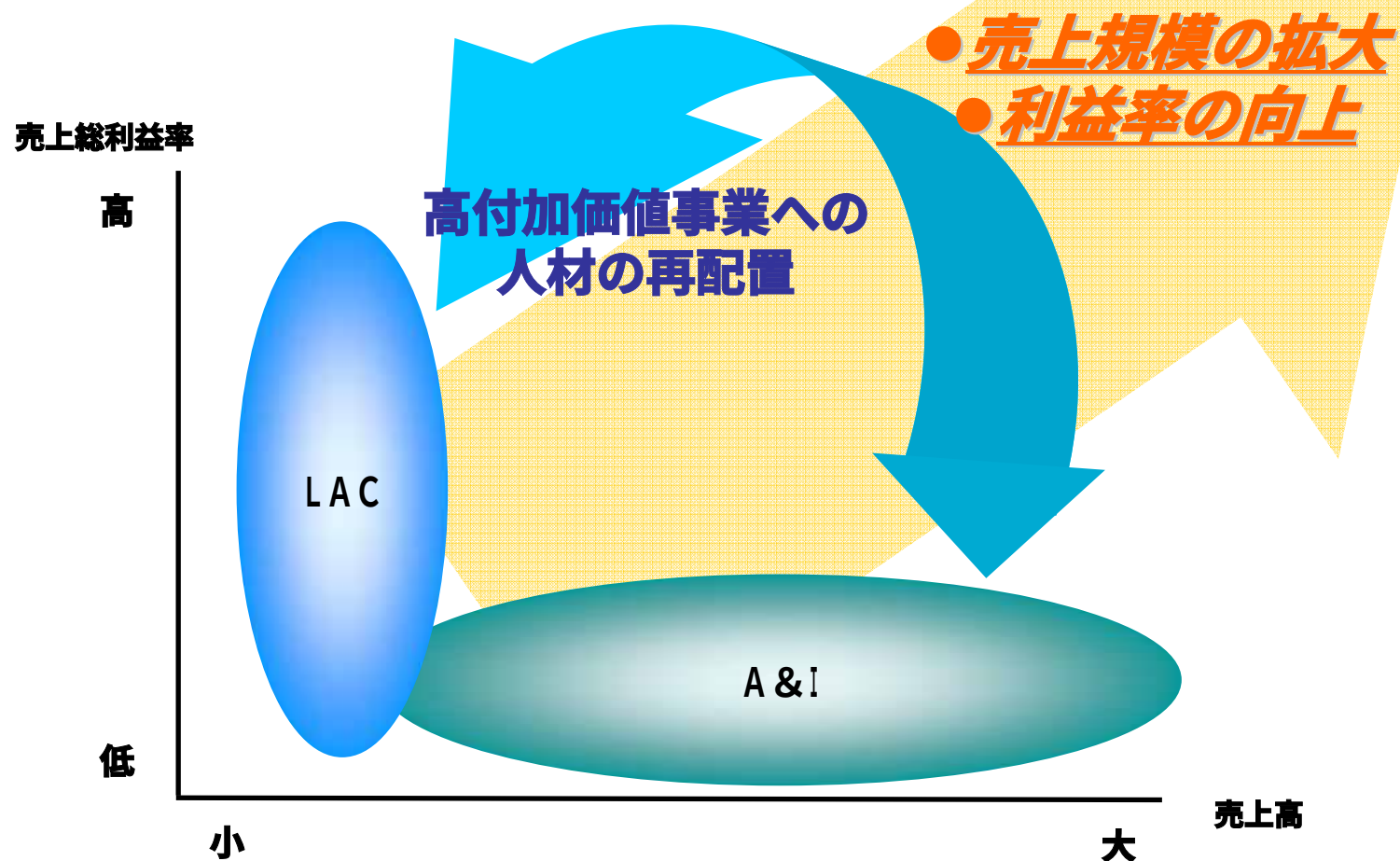
統合シナジー①

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

両社のコンピテンシーの拡大によるビジネス拡大



出所; LAC'06年12月期/A&I'07年3月期決算値

統合シナジー②

グループ
会社について

経営統合
について

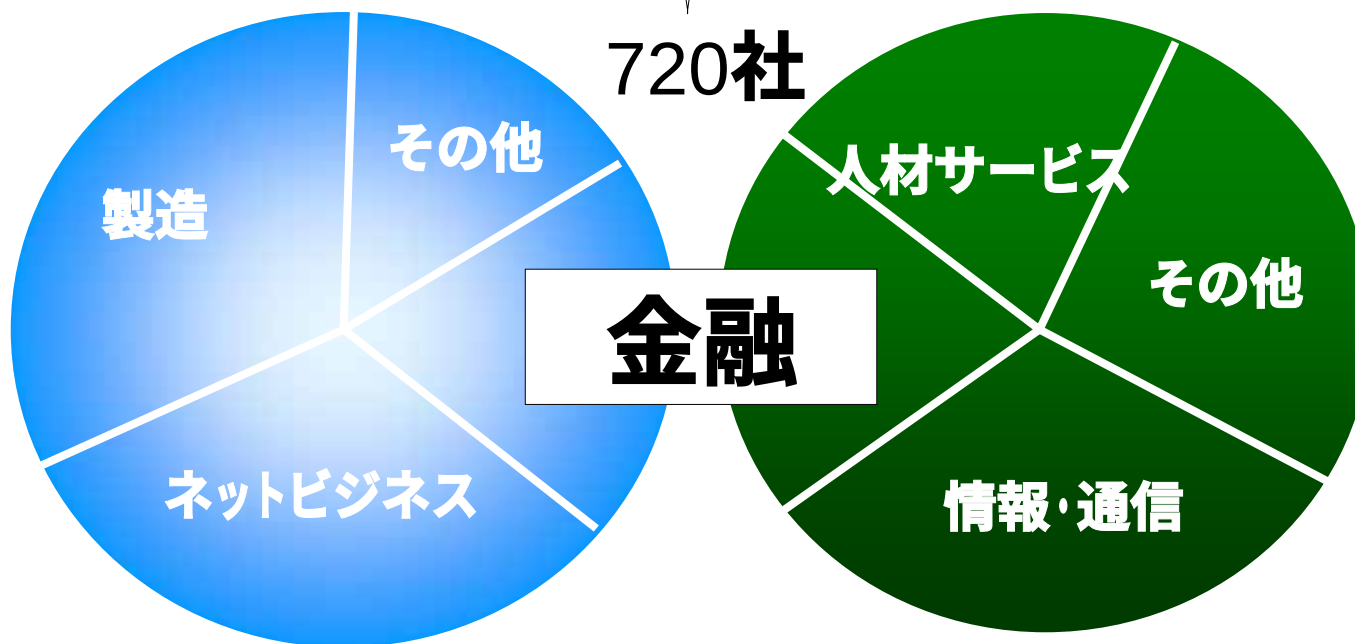
シナジー
と
事業計画

顧客基盤によって広がるビジネスチャンス

LAC:370社

A&I:350社

720社



主要なお客様

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

防衛省

警察庁

日本銀行

トヨタ自動車

ソニー

松下電器

三菱東京UFJ銀行

みずほ証券

KDDI

楽天

主要なお客様



JTB

みずほ情報総研

ターフ・メディア・システム

グッドウィル

大和総研

野村総合研究所

アメリカンファミリー生命保険

喜多方市

自治労システムズ

日本アイ・ビー・エム

※順不同・「株式会社」略

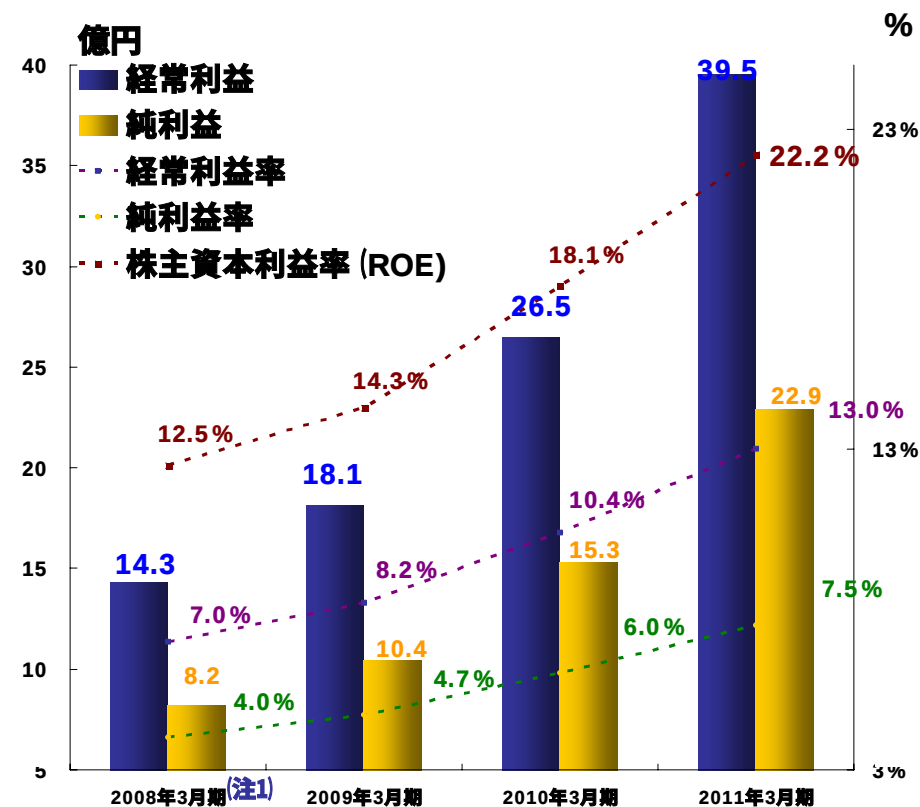
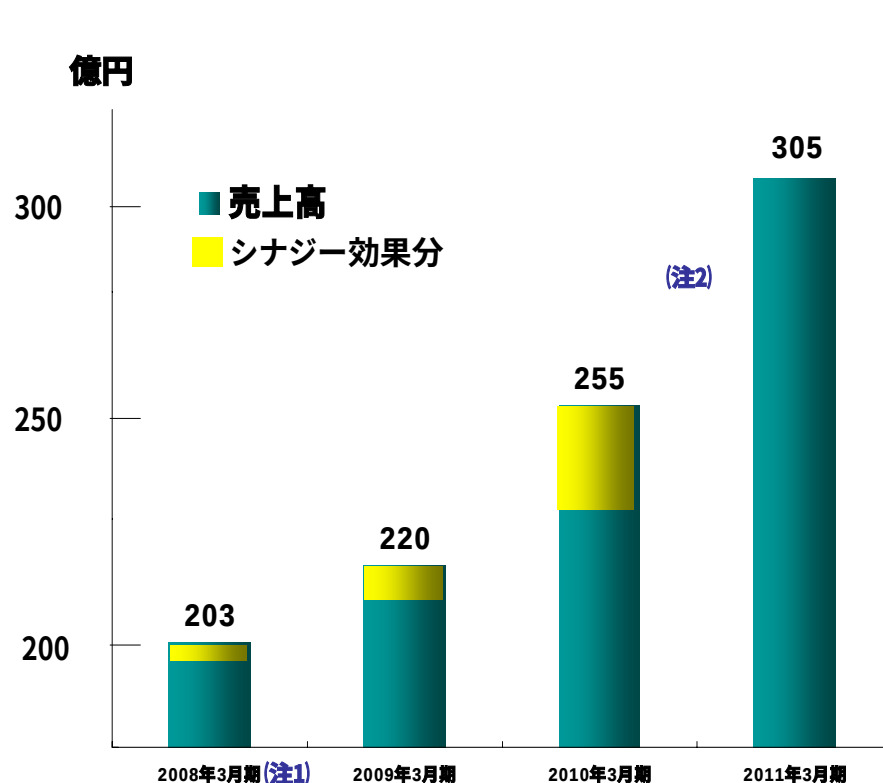
中期事業計画

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

売上高／経常利益／株主資本利益率



(注1) 2008年3月期は、統合前の2007年4月～9月の6ヶ月を含めた1年とみなしています

(注2) 統合シナジーの効果としては、2010年までを算出し、それ以降は統合した一つのグループとしてみなしています。

株主還元方針

グループ
会社について

経営統合
について

シナジー
と
事業計画

配当政策

目標指標：DOE（株主資本配当率） 5%

基本方針

- ・長期的かつ継続的な配当水準を維持
- ・年2回の配当
- ・利益の変化や業績に左右されない安定的な配当

(参考)

- ・「DOE」(株主資本配当率)の算出方法

DOE＝配当総額÷株主資本

→株主資本に対し、どの程度の配当が行われているかを示す指標

- ・DOEの実績平均値は、米国が 4.9%、日本が 1.9% (平成17年度ベース 生命保険協会調査より)



ご清聴ありがとうございました





参考資料①

ラックホールディングス株式会社について



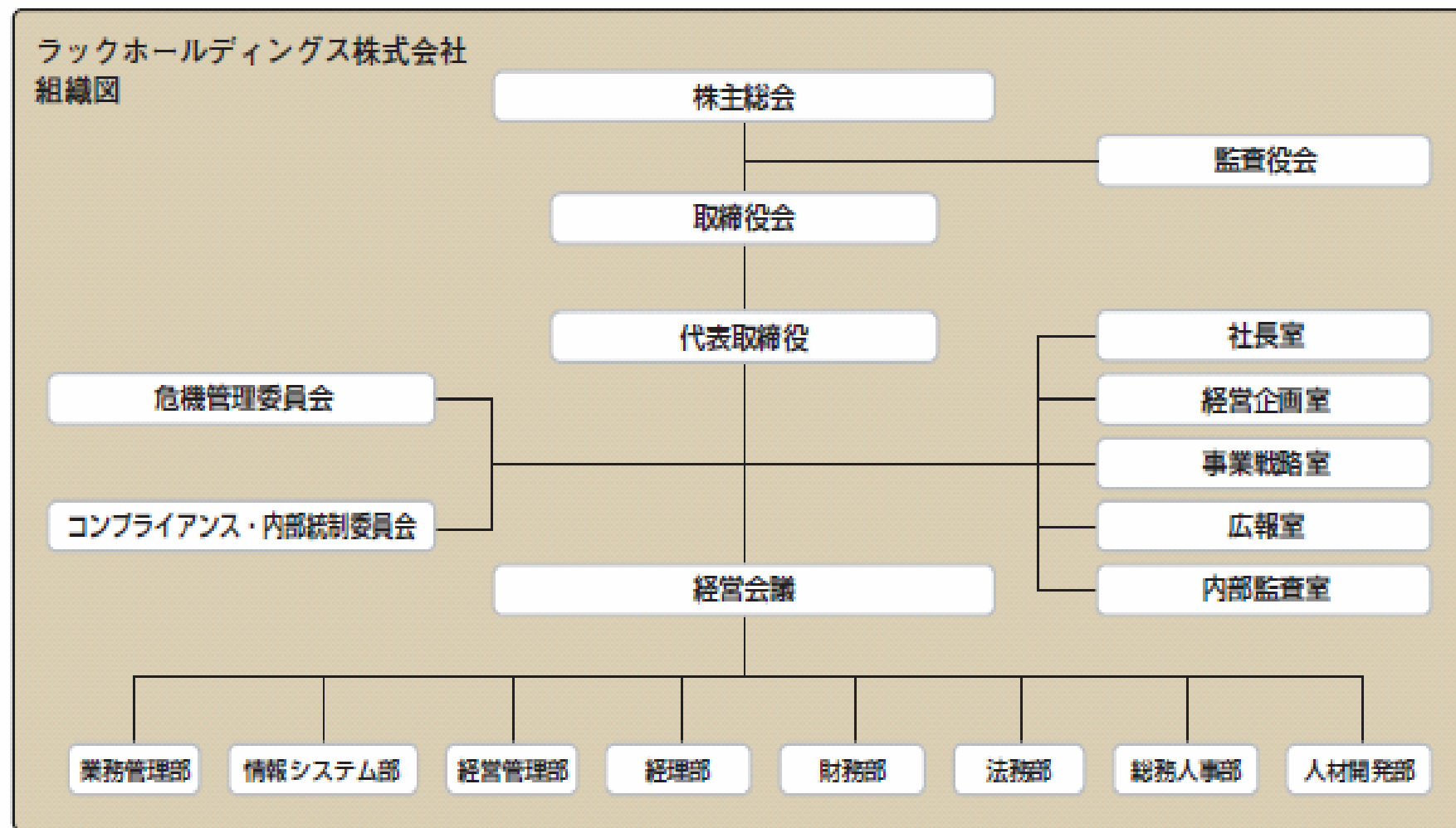
会社概要

(1) 商号:	ラックホールディングス株式会社
(2) 英文名:	LAC Holdings, Inc.
(3) 上場市場:	株式コード 3857 ジャスダック証券取引所、大阪証券取引所ヘラクレス市場
(4) 事業内容:	傘下子会社およびグループの経営管理ならびにそれに付帯する業務を行う
(5) 本店所在地:	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター11階
(6) 資本金の額:	10億円
(7) 発行予定株式数:	28,283,120株
(8) 単元株式数:	100株
(9) 事業年度の末日:	3月31日
(10) 会計監査人:	太陽ASG監査法人
(11) 株主名簿管理人:	三菱UFJ信託銀行株式会社
(12) ホームページ	http://www.lachd.co.jp/

役員構成

役職名	氏名
代表取締役社長 執行役員社長	三柴 元
取締役 常務執行役員	大阿久 昌彦 (エー・アンド・アイ システム株式会社 代表取締役)
取締役 常務執行役員	高梨 輝彦 (株式会社ラック 代表取締役)
取締役 執行役員	牧野 敏夫
取締役 執行役員	白石 通紀
社外取締役	中内 重郎
常勤監査役	畑 康徳
社外監査役	高井 健三
社外監査役	酒井 富雄
執行役員	伊藤 信博
執行役員	仲田 聡
執行役員	萩原 利彦
執行役員	齋藤 理
執行役員	石崎 克彦
執行役員	西本 逸郎

組織図



グループ全体図



グループ会社の概要

	ラック	A&I
社名	株式会社ラック	エー・アンド・アイ システム株式会社
設立	1986年(昭和61年) 9月	1987年(昭和62年) 5月
売上高	64億5,400万円 (2006年12月期実績)	116億400万円 (2007年3月期実績)
資本金	11億5,942万円	12億5,937万円
従業員数	470名 (2007年6月末)	個別:587名 連結:782名 (2007年4月末)
関連 子会社		株式会社保険システム研究所
		株式会社ソフトウェアサービス
		株式会社アクシス
上場市場	株式コード 4359 ジャスダック (※2007年9月25日に上場廃止)	株式コード 4773 大阪証券取引所 (※2007年9月25日に上場廃止)

事業領域

システムインテグレーションサービス(SIS)事業

- 開発サービス
- ソリューションサービス
- 関連商品

A&I

セキュリティソリューションサービス(SSS)事業

- コンサルティングサービス
- 構築サービス
- 運用監視サービス
- 関連商品

LAC

事業計画-全社-

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
連結売上高	20,300	22,000 (前年比108.4%)	25,500 (前年比115.9%)	30,500 (前年比119.6%)
システムインテグレーションサービス (SIS)	15,300	15,970 (前年比104.4%)	17,640 (前年比110.5%)	20,400 (前年比115.6%)
セキュリティソリューションサービス (SSS)	5,000	6,030 (前年比120.6%)	7,860 (前年比130.3%)	10,100 (前年比128.5%)
連結経常利益 ＜同率＞	1,430 ＜7.0%＞	1,810 ＜8.2%＞	2,650 ＜10.4%＞	3,950 ＜13.0%＞
(うちシナジ-効果分)	(150)	(300)	(700)	—
連結純利益 ＜同率＞	820 ＜4.0%＞	1,040 ＜4.7%＞	1,530 ＜6.0%＞	2,290 ＜7.5%＞
配当総額	330	365	425	520
株主資本配当率 (DOE)	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%
一株当たり配当 (円)	12	13	15	19
一株当たり純利益 (円)	29.0	36.8	54.1	81.0
株主資本利益率 (ROE)	12.5%	14.3%	18.1%	22.2%
総資産利益率 (ROA)	7.4%	9.1%	12.8%	17.2%

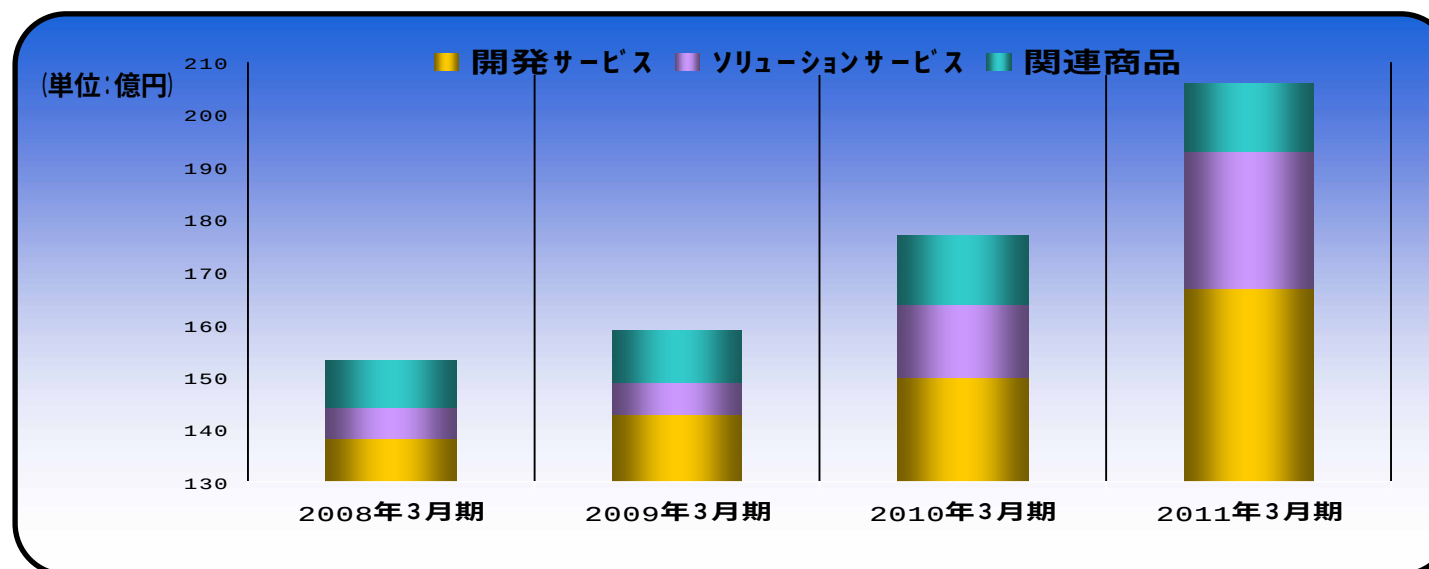
※2008年3月期は、統合前6ヶ月を加え1年間とみなした数字です。

※各年度、のれん代償却130百万円が含まれています。(のれん代は650百万円で試算)

事業計画-システムインテグレーションサービス(SIS)-

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
システムインテグレーションサービス事業	15,300	15,970	17,640	20,400
開発サービス	13,820	14,300	15,020	16,500
ソリューションサービス	630	640	1,370	2,590
関連商品	850	1,030	1,250	1,310



事業計画-システムインテグレーションサービス(SIS)-

事業方針

◆ 高収益事業への転換および拡充

- 金融系(基盤・業務)ビジネスの拡充
- 人材派遣関連ビジネスの拡充
- セキュリティ関連基盤ビジネスの拡大
- 高収益事業への人材の再配置
- 低収益ビジネスからの撤退

◆ ソリューションビジネスの推進

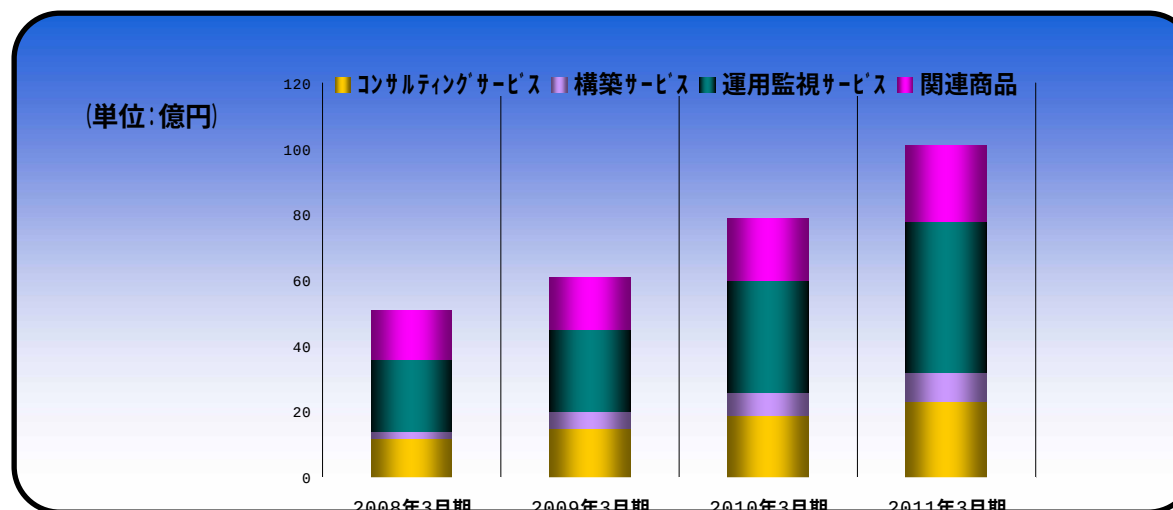
- 人材派遣関連SaaSビジネス
- Notes関連ソリューション
- 新規ソリューションビジネス



事業計画-セキュリティソリューションサービス(SSS)-

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
セキュリティソリューションサービス事業	5,000	6,030	7,860	10,100
コンサルティングサービス	1,190	1,490	1,850	2,330
構築サービス	150	490	680	870
運用監視サービス	2,190	2,450	3,430	4,600
関連商品	1,470	1,600	1,900	2,300



事業計画-セキュリティソリューションサービス(SSS)-

事業方針

◆セキュリティソリューション事業領域の再定義

- 事業領域を従来の「ネットワークセキュリティ」から
「IT技術を利用した企業のリスク管理支援」と再定義します。

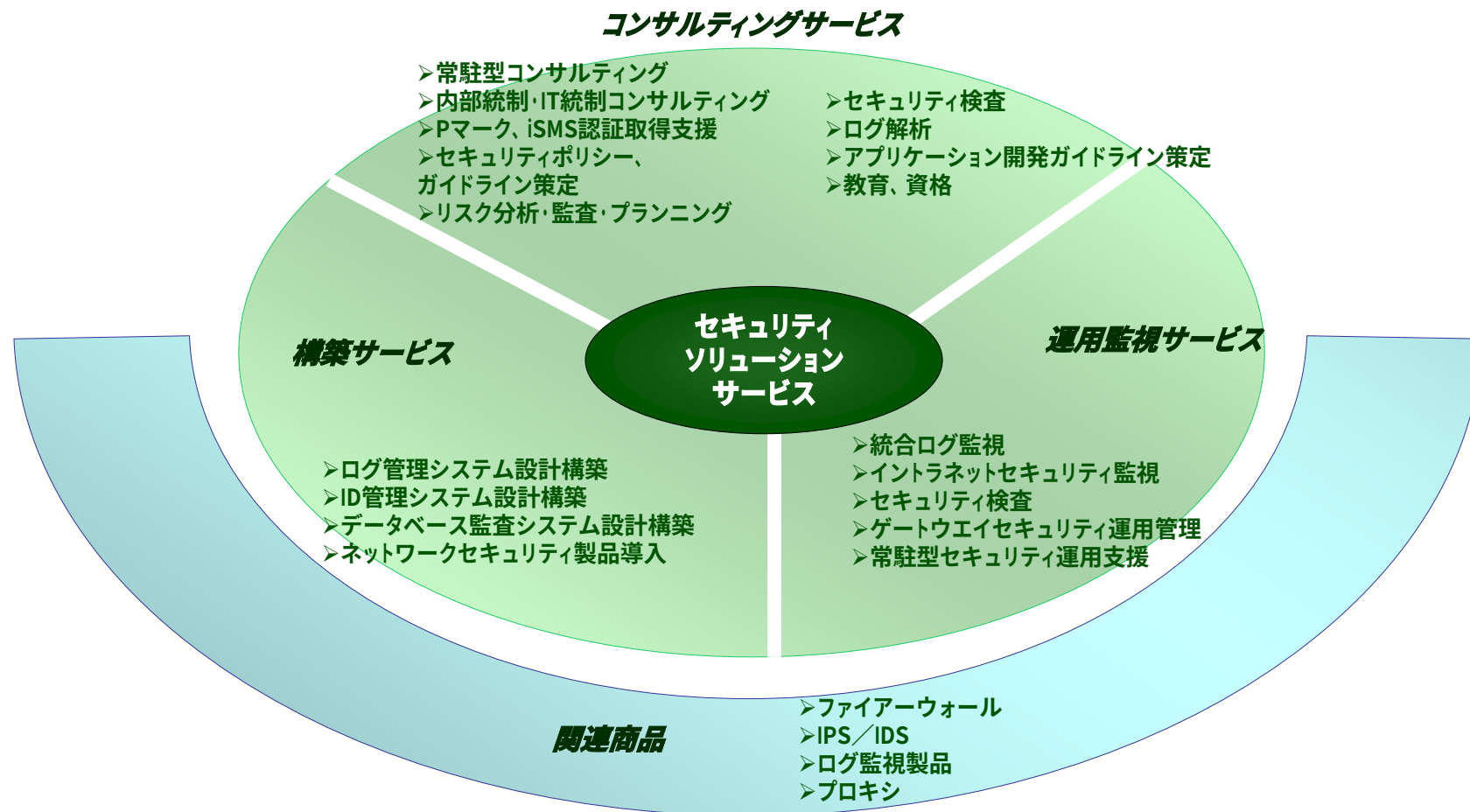
◆サービスをワンストップで提供

- コンサルティング、システム構築、運用監視まで、
一貫したサービスを提供いたします。



事業計画-セキュリティソリューションサービス(SSS)-

事業領域

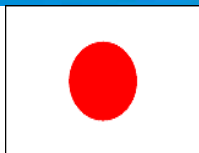




参考資料②

情報セキュリティの市場動向

セキュリティの需要ってどれくらいあるの？



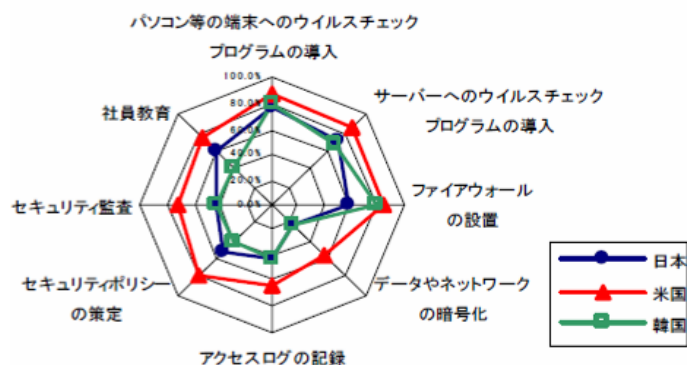
VS



VS

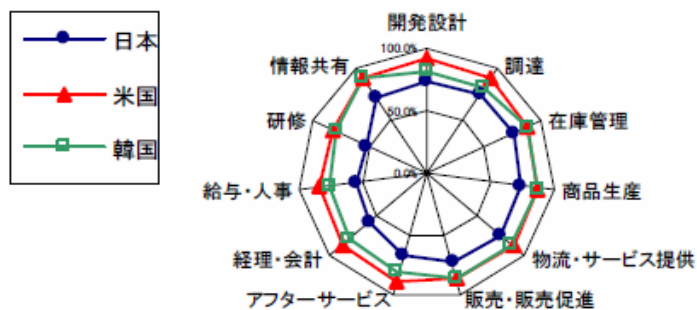


セキュリティ対策



セキュリティ対策
が遅れているの
ではなく、**IT活用**
が遅れている
んだ。

社内システム

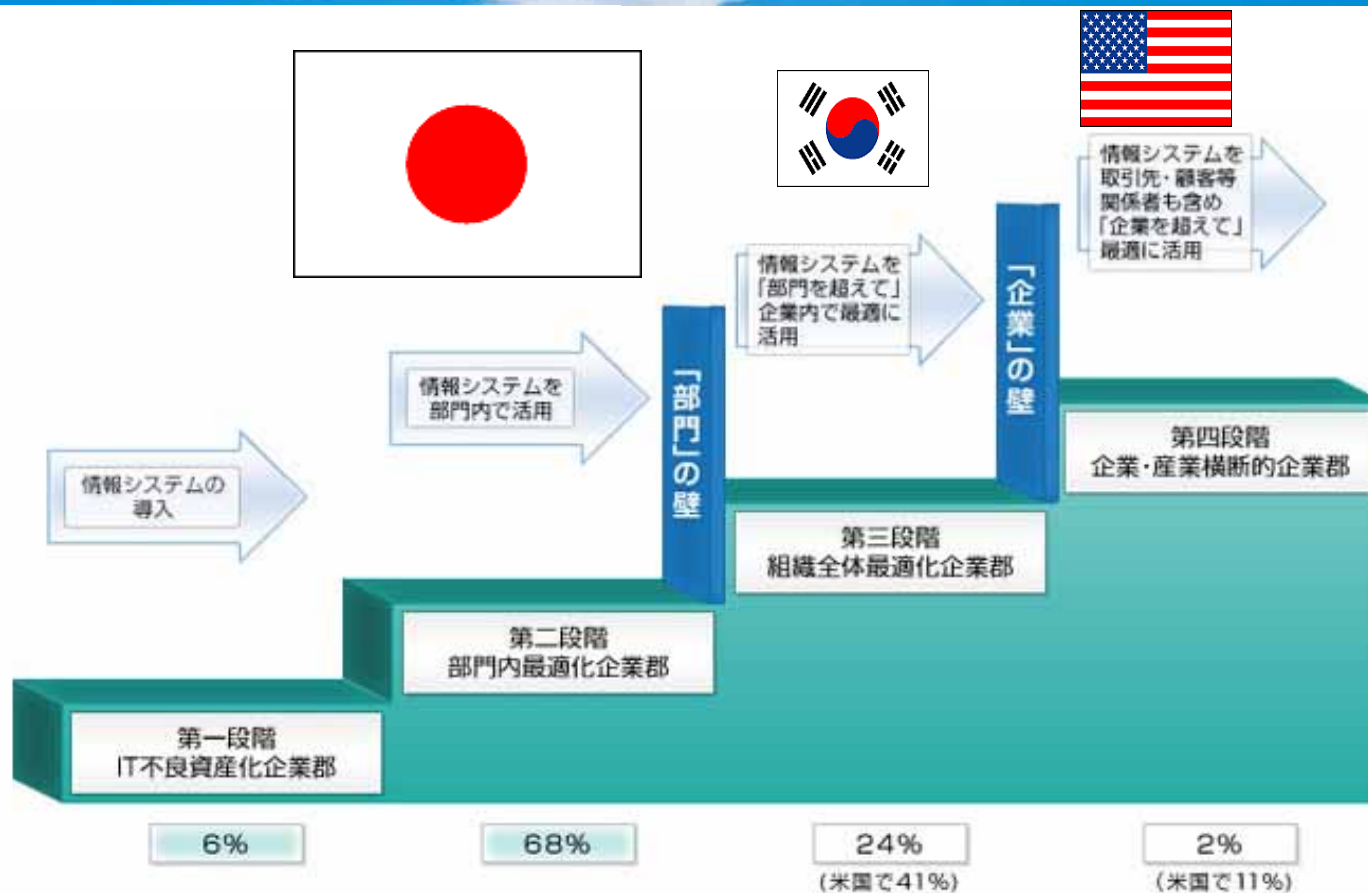


社外システム



(出典)総務省「企業のICT活用現状調査」(平成17年3月)

IT活用に関する日本の現状は？

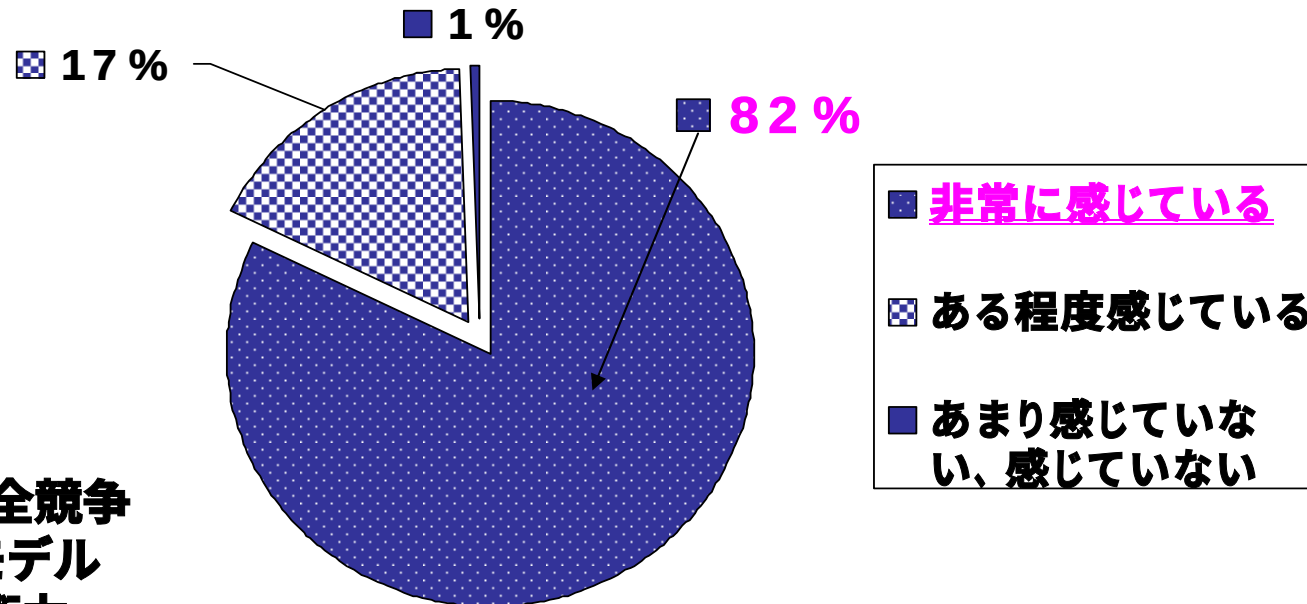


出典：経済産業省「IT投資促進税制に関するアンケート調査」（平成17年8月）、ガートナー「IT投資動向に関する海外調査」（平成17年8月）

わが国のIT投資はようやく第二段階

セキュリティ対策のニーズは？

大手・中堅企業は情報セキュリティ対策の必要性を感じている？



電子政府
規制撤廃
海外企業との完全競争
新しいビジネスモデル
企業競争力・技術力
内部統制・不正のない取引
.....

平成18年度税制改正に関する経済産業省意見 (平成17年8月)

わが国では、
これからが、情報セキュリティの本番です！

成長が期待されるセキュリティサービス

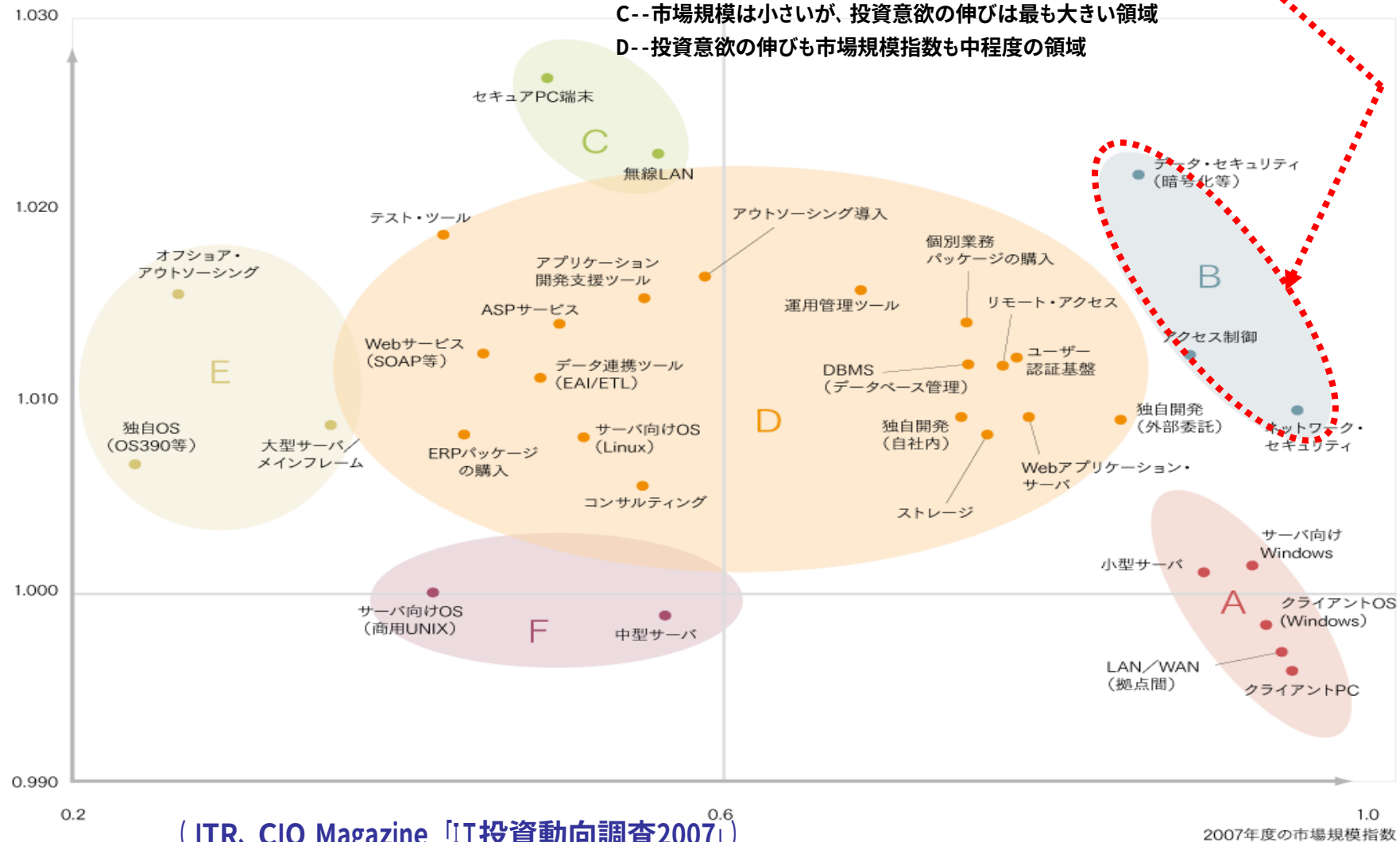
A--投資意欲の伸びは微増あるいはマイナスであるが、多くの企業が投資意欲を示している領域

B--来期における投資意欲が比較的強く、しかも市場規模が大きい領域

C--市場規模は小さいが、投資意欲の伸びは最も大きい領域

D--投資意欲の伸びも市場規模指数も中程度の領域

2006年度から2007年度にかけての投資意欲の伸び





インターネットセキュリティシステムの親会社を米IBMが買収

「ウイルスバスター」で知られるトレンドマイクロの実力は？

ウイルスや不正侵入行為による被害、ウィニーなど情報共有ソフトウェアによる情報漏えいなどがあとを絶たない。そのためウイルス感染からパソコンを守るワクチンソフトなどネットのセキュリティ対策が求められており、ネットセキュリティ市場の規模は拡大傾向、2010年には7000億円を超える市場になるとの報告もある。

同時に、業界再編も必至。不正侵入検知・防衛製品の販売を手がけるインターネットセキュリティシステムズの親会社である米ISSを06年10月に買収したのはIBM（米）。そのため日本法人のインターネットセキュリティシステムズも日本IBMと統合したことで、07年4月に上場を廃止。不正アクセス監視を展開しているラックは、ソリューション事業のイー・アンド・アイシステムと07年10月に統合予定だ。

ネットセキリティ專業の上場会社である日本ベリサインは、米社とNTTグループの共同出資でスタート、サイトの安全性を証明する電子証明書の発行を手がけている。トレンドマイクロは、ウイルス侵入防止ソフト「ウイルスバスター」で知られる。

41